

ピア・レスポンス活動が作文推敲に及ぼす影響

ーワークシートの内容と作文推敲の関係を中心にー

お茶の水女子大学大学院

伊佐地千恵子

はじめに

英語教育などでは 1970 年代後半になると、プロセス・アプローチのような書き手の文章産出過程に焦点を当てた指導が盛んになった。これには、仲間からのフィードバックによる推敲も含まれている。このような仲間からのフィードバックである「ピア・レスポンス」活動を中級学習者の作文指導に取り入れ、その有効性を研究したものが日本語教育でも見られるようになった（池田、1998 ほか）。

池田（2001）は、「ピア・レスポンスは、作文を書くプロセスの中でピア（仲間）、つまり学習者同士がお互いの作文を改善するためにレスポンス（発言）をし合う活動のことである」と、定義している。本研究では、仲間同士がピア・レスポンスをし合うことを「ピア・レスポンス活動」、その結果、ワークシートに書かれたフィードバックを「ピア・レスポンス」と表現する。

1. 先行研究

日本におけるピア・レスポンス研究はまだ始まったばかり（池田、1998 ほか）であるが、池田は仲間からのフィードバックは教師フィードバックより、推敲に与える影響は大きいと報告している。広瀬(2000)は池田（1999b）の研究結果を踏まえて、韓国人中級学習者を対象とし、母語を援用したピア・レスポンス活動を行っている。その方法はワークシートを使用し、その後話し合いをするものであったが、分析はワークシートに記入されたピア・レスポンスの内容を手掛かりにしている。それによれば、質問 5%、読み手によるテーマに関する意見・説明 12%、よい点の指摘 24%、改善のためのアドバイス 55%、その他 4%であった。これらのピア・レスポンスが推敲に与えた影響は質問 11 例中 3 例（27.3%）、作文テーマに関する意見・説明 26 例中 5 例（19.2%）、改善のためのアドバイス 36 例中 14 例（38.9%）と報告されている。

2. 研究の目的

広瀬(2000)の結果から、中級学習者の場合、推敲への影響が比較的大きいものは改善のためのアドバイス(38.9%)と質問(27.3%)であることが分かった。そこで、本研究では、次の 2 点を研究課題とする。

<研究課題>

- ① 質問と意見中心のピア・レスポンス活動をした場合、学習者はどのようなピア・レスポンスを行うのか。
- ② 作文推敲に影響を与えるのはどのような内容のピア・レスポンスか。

3. 研究方法

被験者 : 東京都内にある日本語学校、上級クラスの男性3名、女性5名

調査期間 : 2001年4月から2001年7月まで

授業の流れ

①テーマについての理解

新聞記事を読む。内容の説明を受け、理解し、話し合いをする。

②テーマに沿った作文を書いて提出 — 第一原稿 (推敲前)

↓ 教師フィードバック (言語形式面)

③教師訂正を参考にして自分の作文を書き直す。 — 第二原稿

④グループ内で第二原稿を交換して、感想や意見をワークシートに書く。

↓ ピア・レスポンス (内容面)

⑤ピア・レスポンスを取り入れる形で、もう一度自分の作文を書き直す。

— 第三原稿 (推敲後)

4. 分析方法

分析方法は、まずピア・レスポンスの内容を質問と意見、そのほかにアドバイス、感想、評価、内容以外 (言語形式) のもの、その他の7つに分類し、推敲への影響の割合を出す。質問と意見はそれを更に分類し、推敲に大きな影響を与える質問や意見はどのようなものであるのか考察した。

次に、ピア・レスポンスが推敲に影響を与えたと思われる推敲前と推敲後の作文の該当部分を抜き出し、作文の変化を分析した。ピア・レスポンスを書き手が推敲にどのように利用しているかというピア・レスポンスの受け手の面からも分析した。

5. 結果と考察

5. 1 ピア・レスポンスの内容

ピア・レスポンスが作文推敲にどの程度影響しているのか調べたところ、図1のような結果になった。

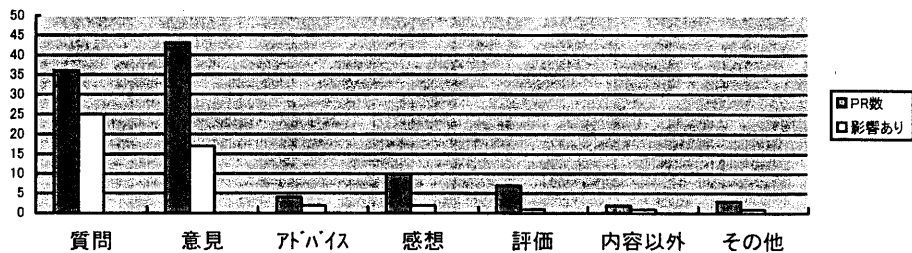


図1 ピア・レスポンスの内容と推敲に与える影響

推敲への影響が最も多いのは質問で25あった。質問の全ピア・レスポンス数が36であるから、影響を与えた割合は69.4%になる。次に意見は全部で43あり、その中の17が推敲に影響を与え、影響を与えた割合は39.5%であった。

5. 2 質問の種類

次に質問の中でも推敲に影響が大きいのはどのような質問であるかを知るために質問の内容を次のように更に分類した。

内容 : 「何」「どんな」のような内容について詳しい説明を求めるような質問

方法 : 「どうすれば」「どう分けたら」のような方法を問うもの

理由 : 「なぜ」という質問

YN : 「はい」「いいえ」で答える質問

その結果、図2のような結果が得られた。推敲に最も大きな影響を与えた質問は内容を問うもので、15例中12例が推敲に取り入れていた。書き手にとっても作文の不十分な部分がどこであるのか明確になって推敲に取り入れやすいことが分かる。一方、YN質問はそこから発展させることが難しいので推敲に直接反映しにくいと言える。

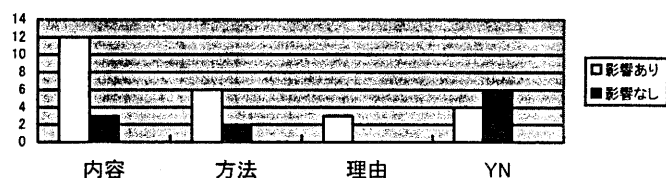


図2 質問の種類と推敲への影響

5. 3 意見の種類

意見は次の3つに分類し、推敲への影響を調べた。

賛成 : 書き手の考えに賛成の意向を示しているもの

反 対： 書き手の考えに反対の意向を示しているもの

その他： 賛成や反対の立場を取らず、読み手が自分の意見を示したもの

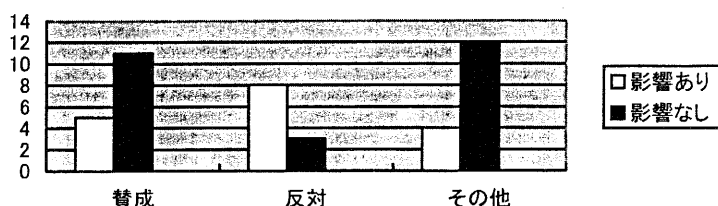


図3 意見の種類と推敲への影響

その結果、図3のような結果が得られた。反対意見が推敲に大きな影響を与えた理由としては、書き手は自分の意見に反対された場合、なぜ反対されたのか考え、自分の意見に自信を持っていれば、相手を説得しようと試み、読み手の言い分がもっともであると考えれば、書き手はその部分を修正することが考えられる。賛成意見は推敲にはあまり反映されないが、広瀬(2000)も『『よい点』による直接的な影響を見ることはできないが、よい点を生かして悪い点を改善するという、目標設定の面では有効であったと考える』と述べているように、書き手を勇気づけることには役立つと思われるので、ピア・レスポンス活動としては重要な役割を果たすと考えられる。

5. 4 推敲の例

ピア・レスポンスが推敲にどのように取り入れられているのか、いくつか例を示す。

例1と例2は推敲によって内容が分かりやすくなったものであり、例3は推敲によって分かりにくくなった例である。

◎推敲によって分かりやすくなった作文例

【例1】質問(方法)のピア・レスポンス→付加

(推敲前) 特に共働きなら、結婚での性別役割分業は当然であります。

(ピア) 男と言う物は家事が苦手だから、どうすれば、家事に同調させますか。

(推敲後) 推敲前の作文の最後に続けて…役割分業と言え、男子が女子に代わって子供を産むこ

とではないで、ただお互いができる範囲で努力することであり。例えば、ご飯を女が作ったら、男は皿洗いをふとんを洗くのを男がしたら、女はそれをたたんでしまうのを…。

そうすれば幸せな役割分業をすることができそうです。

【例2】意見(反対)のピア・レスポンス→書き手の意見の変更

(推敲前) 無理に食べたり電話をしたりすると先生として①やめさせる方がいいです。あまり騒ぎすぎるとよく勉強もできないし先生もおもしろくなくなるからです。

私が教授だったら③授業中ちゃんと暇を見つけて食べ物を食べさせてみんな元気に戻って面白く授業すると思います。

(ピア) ご飯を食べなかったとしても、授業時間は食べる時間ではないから、学生達に「休み時間を利用して何かを食べてください」と私は言いたいですね。

(推敲後) ほかの人に迷惑をかけながら電話したり、ラーメンを食べたりするのは①ぜったい許さない。②教室は勉強する所で、ご飯を食べる所じゃない。③本当におなかの空いたら先生と言われた後食べてきて授業するといいたと思う。

◎推敲によって分かりにくくなった作文例

【例3】質問(方法)のピア・レスポンス→書換え

(推敲前) いくらお互い愛して結婚しても、今まで育ってきた環境が違うだから生活習慣とか考え方とも随分違います。そして日常生活での問題を解決するためには互いに努力が必要です。

(ピア) 日常生活での努力が必要だと言っていますが、家事の分担ということですか。そうすれば、どう分けた方がいいと思いますか。

(推敲後) 今まで育ってきた環境が違うのだから各自の立場より幸せな家庭のために互いに譲歩するべきだと思います。

6. まとめ

質問では内容(42%)、YN(28%)、方法(22%)、理由(8%)となって内容を問う質問、「はい」「いいえ」で答える質問が多くあった。また、意見では賛成(37%)、その他(37%)、反対(26%)となって、反対意見より賛成意見の方が多く見られた。

質問のピア・レスポンスは推敲に 69.4%という大きな影響を与えた。その中でも理由(100%)、内容(80%)、方法(75%)、YN(40%)であった。

意見では反対(73%)、賛成(31%)、その他(25%)の結果となり、反対が推敲に大きな影響を及ぼした。

これらの結果を広瀬(2000)の結果と考え合わせると作文の推敲を活発にする目的でピア・レスポンス活動を行う場合は質問や意見を中心にピア・レスポンスを行ったほうが効果的であり、また、上級学習者の方がピア・レスポンスを多く取り入れて推敲

していることが明らかになった。

6. 今後の課題

今回、ピア・レスポンスの内容を細かく見ていくことによって、推敲を媒介とした読み手と書き手のかかわりが少し見えてきた。今回得られた結果を基に、初級者、中級者のような日本語能力がまだ不十分な学習者にも、質問や意見に焦点を当てたピア・レスポンス活動をすることによって、作文推敲への有効性が認められるのではないかということについて、今後調査研究を続ける予定である。

<参考資料>ワークシート

◎ 友達の書いた作文を読んで、質問と意見を書いてください。

名前	質問 (どの部分への質問かが分かるように書いてください)	意見 (反対意見・賛成意見には理由も書いてください。アドバイスでもいいです)

<主な参考文献>

池田玲子 (1998) 「日本語におけるピア・レスポンスの効果」 お茶の水女子大学修士論文

池田玲子 (1999 a) 「日本語作文推敲におけるピア・レスポンスの効果 中級学習者の場合」『言語文化と日本語教育』17号

池田玲子(1999b) 「ピア・レスポンスが可能にすること-中級学習者の場合-」『世界の日本語教育』9

池田玲子 (2001) 「日本語作文教育におけるピア・レスポンスの研究」 お茶の水女子大学博士論文

広瀬和佳子(2000)「母語によるピア・レスポンス(peer response)が推敲作文に及ぼす影響 -韓国人中級学習者を対照とした3ヶ月間の授業活動を通して-」『言語文化と日本語教育』19号

Ferris, D. and Hedgcock, John S. (1998). Teaching ESL Composition: Purpose, Process, and Practice. Lawrence Erlbaum Associates, London